

第120回

エーゲの風と女性の胸もとに
「魅せられて」

昭和53年、成田に国際空港が開港した同じ年に登場し、日本女性の胸をキュンとさせたアンダーウェアがブラジャーです。発売元のワコールのキャッチコピーでテレビCMを流し始めますが、そのとき流されたキャンペーンソングがジュディ・オングの『魅せられて』でした。

ただし、ジュディの名前はすぐには明かされることなく、覆面歌手としての登場でした。担当していたCBS・ソニー・酒井政利は、のちにサントリービールのCM『SWEET MEMORIES』の松田聖子で同じ仕掛けを試みていますが、どちらも英語の歌詞が挿入されていることがポイントでした。

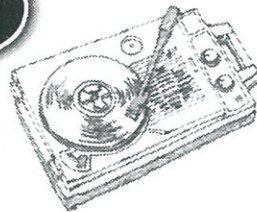
前年の昭和52年、オリコン年間アルバムチャートの11位にランクされていたのは、なんと『ポール・モーリア グレイテスト・ヒッツ24』という当時流行していたイージーリスニングのLPで、このベスト盤には

ポール・モーリアを代表する『エーゲ海の真珠』『オリブの首飾り』などの人気曲が網羅されていました。

名曲カルテ

昭和歌謡と
いつまでも

堀井六郎
絵・松本浦



同じ昭和52年の夏、画家・版画家として知られていた池田満寿夫が小説『エーゲ海に捧ぐ』で芥川賞を受賞、ギリシアとトルコに囲まれ、ヨーロッパとアジアの境に位置するエーゲ海ですが、にわかブームによって名前だけが一人歩きする中、時代の風はエーゲ海から吹いてきているようでした。

池田満寿夫は自らメガホンを取って『エーゲ海に捧ぐ』の映画化に着手し昭和54年4月に公開されましたが、ワコールはこの映画とタイアップ、すでに発売されていた『魅せられて』の歌声が映画の主演女優チヨリナ嬢の着姿CMに重なりました。歌・映画・本、そしてワコール、見事なシンクロでした。

『魅せられて』は「エーゲの風」をテーマにしているため、シングル盤の正式名は『エーゲ海のテーマ 魅せられて』であり、作詞の阿木耀子は「Wind is blowing from the Aegean (風はエーゲ海から吹いている)」と英語で挿入、作・編曲した筒美京平はジュディの魅力を実際立たせるため、英

語箇所の前で演奏を止め、歌の聴かせどころにしています。

「女は海」の歌詞は、シャンソンの名曲「ラ・メール(海)」からの発想でしょうか。フランス語だと「メール」は海(mer)も母(mère)も同じ発音になるので、波の動きを揺りかごとたえ、母の胸の中でやすらぐ男への子守唄のように思えないこともありません。

不死鳥のような羽を広げて歌うジュディの衣装は当初、スクリーン用としていたため白が基調になっていますが、ワコールの着メーカとしての清潔感が自然と演出され、女性がフロントホックを外すところを「見せられて」、にやつく男性が多かったことでしょう。

筒美京平は『魅せられて』の前年にも『飛んでイスタンブール』(詞・ちあき哲也、歌・庄野真代)を大ヒットさせ、海外旅行への視野をジュディの母国・台湾や香港などのアジア、グアム、ハワイからエーゲ海、欧州方面へと広げる役割を果たすことになりました。

